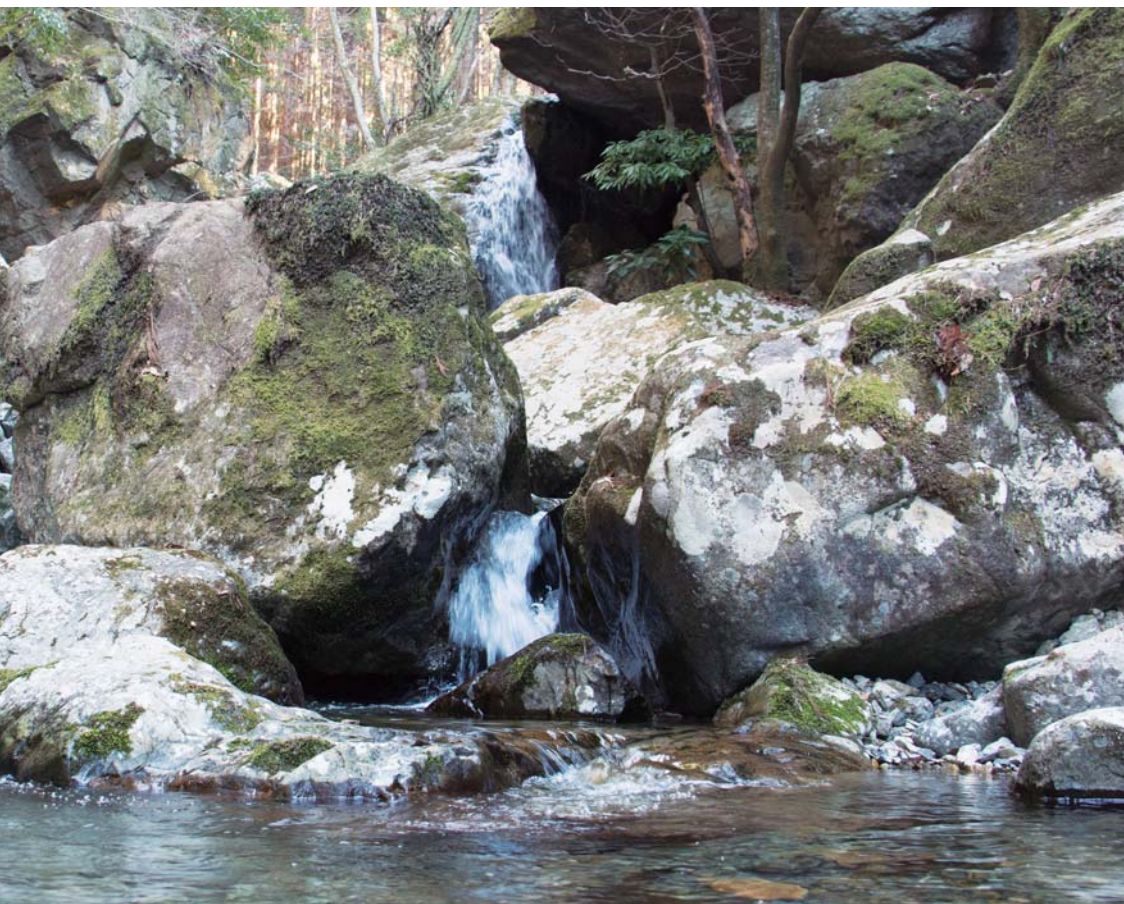




私たちの限りある **水** を次世代へと繋ぐ。



水道局庁舎



ごあいさつ

大分市長

佐藤 樹一郎

緑豊かな山々と青い海や川に恵まれた大分市は、九州の東端、瀬戸内海を臨み、古代から東九州の要衝として重要な役割を担い、昭和39年の新産業都市の指定、平成9年の中核市への移行、平成17年の佐賀関町、野津原町との合併を経て、人口48万人を擁する都市へと大きく成長してきました。

近年も大分駅周辺の整備や大分県立美術館のオープン、東九州自動車道の全線開通などにより、多彩な魅力と活力に満ちた県都として発展を続けています。

水道は、都市の発展とそこに暮らす市民の生活に欠かすことができない基盤の一つです。本市の水道事業は、創設以来、市勢の発展に伴う需要の増加に応えながら水を絶えることなく供給し続け、このたび通水90周年を迎えることとなりました。

これもひとえに、水道事業を支えていただいた市民の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様方の永年にわたるご理解とご協力のたまものと厚くお礼申し上げます。

本市におきましては、平成28年6月に大分市総合計画「おおいた創造ビジョン2024」を策定し、新たな時代にふさわしい大分市の創造に取り組んでいるところです。水道事業におきましても、国が建設する大分川ダムに参画し安定的な水源の確保を図るとともに、災害に強い施設づくりを進めながら、将来にわたり良質で安全な水を安定供給することができるよう努めてまいります。

今後とも、本市の水道事業の円滑な推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



発刊にあたって

大分市水道事業管理者

三重野 小二郎

大分市の水道事業は、昭和2年7月10日、九州で8番目の水道として通水を開始して以来、市民生活を支える重要なライフラインとして、市勢の発展とともに拡張を重ね、平成29年に90周年を迎えることとなりました。

創設当時には給水能力10,500 m^3 /日、給水人口7,589人であったものが、現在では、給水能力198,431 m^3 /日、給水人口468,332人、水道の普及率も約98%の高水準へと目覚ましい発展を遂げております。これも市民の皆様をはじめ水道関係者各位、先輩諸氏の英知と不断の努力のたまものであると改めて感謝申し上げます。

この記念誌は、大分市水道の創設から90年間にわたるあゆみを回顧し、来る100周年を経て次の100年へと歴史を引き継ぐためにまとめたものであり、本市の水道事業へのご理解を深めていただく一助となれば幸甚に存じます。

今後、本市においても避けられない人口減少社会へと移行するなか、水道も新たな課題に対応する事業運営が求められています。

このため、大分市総合計画に沿った施策を展開するとともに、大分市水道事業基本計画に掲げる「未来へ！安心を引き継ぐしなやかな大分の水道」の実現のため、将来にわたって安全な水の確保や、災害に強い水道を構築するなど、次世代まで持続できる水道事業の運営を進めてまいります。